

生活

2025.1.25

あけくれ

出雲 絹代さん 87歳 東京都狛江市

その時の気分でスケッチブックを買っては積み上げていた。それがテレビで「コマシヤルのオードリー・ヘプバーンを見て描きたくなった。意外と進み、楽しんで1冊が終わった。2冊目を出し、ページを開いてびっくりした。亡き夫が鉢植えの花を上手に描いていたから。次をめぐると夫の自画像があり、それがとんでもなく下手で、笑える絵だったにもかかわらず、泣けてきた。すぐ私も夫を描きたくなり、写真を手元に置く。スケッチ

スケッチ

「あけくれ」への投稿は400字程度です。二重投稿はご遠慮ください。投稿はお返ししません。不採用もあります。採用原稿は一部添削することや電子媒体で使用することもあります。

ご意見・ご感想 あけくれは 住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記し〒100 8525 東京新聞生活班へ。ファクス03(3595)6931、seikatut@tokyo-np.co.jp

大人気のインスタ「everyday.meigen」から生まれた名言集

everyday.meigen

エブリデイ名言 ベスト100 なぞり書き帖

数あるインスタ投稿の中から、みんなの心に響いた珠玉の名言100を集めました。静かにじっくりと文字を書くという行為は、心を安定させ、まるで写経のようなヒーリング効果も期待できます。もちろん、お手本を書き写すことによる美文字効果や脳トレにも!

定価 1,430円(10%税込) B5判/並製/112ページ

▼こちらからも注文を承ります

東京新聞(中日新聞東京本社) ☎03-6910-2527(土日祝を除く)

まだ正月は来ていない、今は師走! 旧暦では、の話だ。明治初期までは、月の満ち欠けがひと月の区切りで新月が月初になる。今の暦より概ね1カ月遅れて元日が来る。今年でいえば今度の新月の1月29日。元日に「迎春」と書くがまだ寒くて春感がない。だが29日が明け、晴れたら空を仰ぎ、日差しや風に体を晒してほしい。五感が迎春と受け止めるはずだ。旧暦に合わせると体がラクになる。毎夜、月を眺め、季節の変化を感じる。それだけで不思議とリズム調い、安堵と感謝が湧く。ローカルは空が広く、ビルが妨げない。

ReLife ローカルへ

一昨年、太陽燦々降り注ぐ庭に太陽光パネルを設置、電気は買わないから自給するものになった。昨年11月、中古のEV車を36万円で入手。自給の電気が日中余るので車をコンセントに繋ぐ、するとタダで走る。スタンドに行かないって気分いい。値が上がるガソリンから徐々に足を洗いたかった。入手ガソリンの向こうに中東があり、紛争戦争が付き纏い、使ったガソリンの後ろに気候変動への加担がある。屋根には太陽熱温水器を設置、冬でも日差しが強い日の夕刻、風呂にお湯を落とすと熱々、水で薄めるほど。屋根で滞留する湯はカルキが抜けてまろやか。薪ストーブは数年前に設置、薪は買つと高

買うより体を使って得る



我が家の前の海からの日の出 自置き場所に困るほど貰える薪とストーブ

いが、貰つと喜ばれる。雑木や伐採木は処理に困るのだ。薪割りは体幹を調える。ガス代半減へ。米・大豆を自給し、味噌・醤油・酢・味噌や砂糖代わりの甘酒も自作し、野菜は採る以上に貰える。買物に少ない。暮らしは物価にあたりふたしな。何かを得るには体を使う時間を要する。それをタイムパフォーマンス

◆今回は2月22日

物価を時空で超える

更生後押し「職親」の輪

刑務所の出所者や少年院の出院者に働く場を提供し、更生を促す「職親プロジェクト」がスタートから12年となる。支援を受けたのは延べ1,000人余りに上る。この取り組みを題材にしたドキュメンタリー映画「おまえの親になったるで」(北岸良枝監督)が各地の劇場や刑務所などで上映され、理解と協力の輪を広げている。



職親プロジェクトで厨房に就職し、お好み焼きを調理する男性(左)

プロジェクト12年 参加企業520社突破

プロジェクトは日本財団が助成し、民間が主導。出所者・出院者が再び罪を犯さないよう、企業経営者が「職の親」となって就労を助け、自立更生を後押しする。雇用主となる参加企業は全国で520社を突破した。「なんで窃盗をしたん?」と問われ、「誰も相談する人がいないし」と答える受刑者。乱れた家庭環境、殺伐とした人間関係の中で孤独や自暴自棄に陥り、罪を犯した経緯を告白する。更生の誓いに耳を傾けるカンサイ建築工業

もなると伝える。同映画の一場面だ。映画は草刈さんが出所者・出院者の更生のために奔走、苦闘する姿を映し出す。実の妹を殺害された過去があり、「なんで自分が」と戸惑いもあった。でも「再犯を減らせ、ほそれだけ被害者をなくせ」

映画上映 出所・出院者への理解呼びかけ



刑務所で受刑者の面接をする草刈健太郎さん。映画「おまえの親になったるで」の一場面

み焼き専門店「千房」会長の中井政嗣さんは出所者・出院者を各地の店で雇用している。「仕事も居場所もなくて再び罪を犯す例が多い。こうした状況をなんとかしたいという熱い思いで、経営者たちはがんばっています。社会の理解と支えが不可欠です」